

# 東アジアにおける「持続可能社会」の実現に向けて - 第3回東アジア首脳会議 (EAS) における日本の環境協力イニシアティブ - (2007年11月21日、シンガポールにて福田総理が表明)

## 1. 低炭素・循環型社会の構築 - 温暖化・公害対策と経済的自立の両立 -

### (2) 循環型社会構築への協力

- ・「アジア3R研究・情報ネットワーク」を構築し、政策・経験の共有を通じて各国の3Rの取り組みを支援。
- ・3R及び廃棄物の適正処理の推進に向け、アジア各国より今後5年間で500名以上の研修員を受け入れ。

### 「アジア3R研究・情報ネットワーク」

#### 3Rナレッジハブの推進

- ・アジア開発銀行など複数の国際機関が、アジア太平洋地域の3R・廃棄物に関する情報拠点として、アジア工科大学(AIT)に共同で設立、2007年4月に活動開始。
- ・我が国は3Rに関する自らの経験をベースにした政策・技術・優良事例などに関するコンテンツの提供など積極的な支援を行う。



#### 3R・廃棄物管理研究ネットワークの構築

- ・3R・廃棄物管理に関する研究者・専門家のネットワークを構築。知識の共有、地域毎の取組のプライオリティの確認などを進める。
- ・ネットワークのベースは、日本の廃棄物学会を中心に設立された「アジア太平洋廃棄物専門家会議」。
- ・我が国は上記会議との協力によりネットワーク構築を支援する。

連携



## UNEP (国連環境計画) 持続可能な資源管理に関する国際パネル

- 地球規模での経済活動の拡大に伴い、国際社会の大きな課題となっている天然資源の持続可能な利用の確保に向けて、科学的な知見の充実を図るため、2007年11月にUNEPが設立。世界の著名科学者等約20名がメンバー。
- 任務：
  - ・ **天然資源の利用並びに環境影響等**に関する最新の情報収集・**知識基盤の構築**
  - ・ 選定された資源 / 製品の環境影響の科学的評価の提供、影響低減のための方法に関する理解の増進
  - ・ 途上国等における知識・データ・能力のギャップの特定、能力向上支援、国際的知識交流の支援
- 具体的テーマ：
  - ・ **金属資源**の地球規模でのフロー
  - ・ **バイオ燃料**の環境面や供給面での持続可能性
  - ・ **淡水資源**
  - ・ **途上国等の能力開発等**
- 日本から森口祐一国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター長がメンバー入り。環境省が資金拠出により活動を支援。



## OECDにおける物質フロー分析・資源生産性に関する取組

### 2004年「物質フローと資源生産性に関するOECD理事会勧告」

我が国からのG8サミットへの提案(2003年)を踏まえた国際共同研究により、物質フローに関する情報の改善や指標の開発、その活用のための国際的な共通ガイドラインの策定等を実施。我が国が主導的役割。

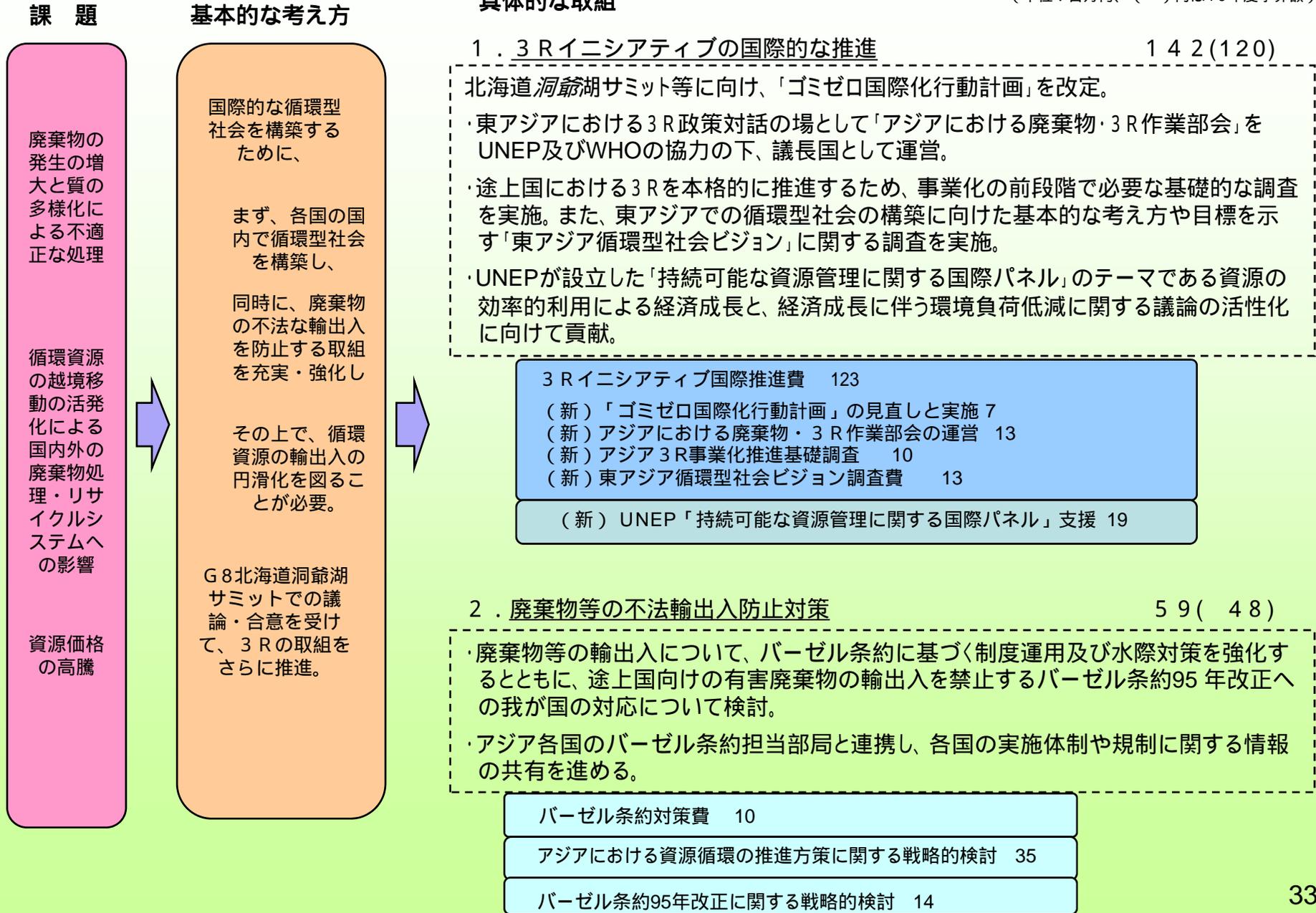
### 2008年「資源生産性に関するOECD理事会勧告」

2004年以来の物質フローに関する研究の進捗を踏まえ、新たな勧告が2008年4月下旬のOECD環境大臣会合において承認される予定。

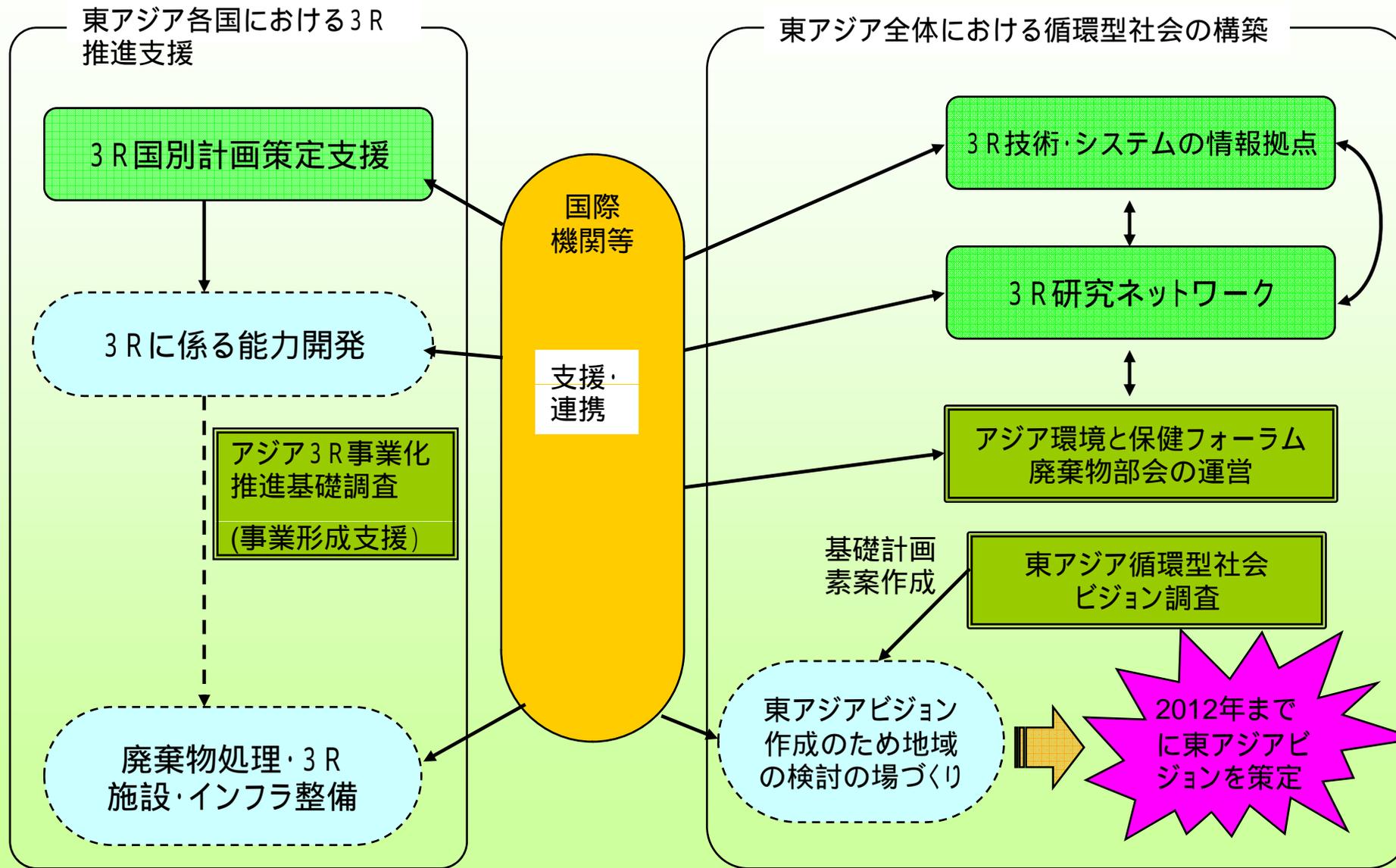
- ・物質フローやその環境影響の分析(評価指標の開発と利用の促進、データの充実等)
- ・資源生産性の向上に関する政策(目標設定等計画目的での物質フロー情報の利用検討、3R等ライフサイクル指向のアプローチ等)

# 3 R イニシアティブの国際的な推進について(平成20年度予算)

(単位：百万円、( )内は19年度予算額)



# 東アジアにおける循環型社会構築のための日本の取組



: 実施中の取組
  : 今後促進されるべき取組
  は平成20年度新規予算要求